



平成27年4月 犬山市

—平成27年度



の子どもたち

—全国学力・学習状況調査から—

平成27年4月21日に「全国学力・学習状況調査」が、文部科学省によって行われました。この調査から見えてきた、犬山の子どもたちの状況をお知らせします。対象学年は、本年度の小学校6年生と中学校3年生です。調査の内容は、国語A（知識問題）国語B（活用問題）算数・数学A（知識問題）算数・数学B（活用問題）理科の3教科と質問紙による学習状況や生活の様子についての調査です。

地域に見守られ、穏やかに育てられている子どもたちが多い傾向が続いています。コミュニケーション能力の育成が求められている中で、読書により親しんだり、自分の意見や考えを積極的に発信したり、自分に自信をもって活動したりする子どもたちを育てていくことが一層大切であると考えられます。

小学校6年生 国語, 算数, 理科 について

中学校3年生 国語, 数学, 理科 について

犬山市全体の国語, 算数, 理科の正答率の状況（全国と比べて）

犬山市全体の国語, 数学, 理科の正答率の状況（全国と比べて）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
小学校6年生	低い	低い	同程度	やや高い	同程度

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
中学校3年生	同程度	同程度	高い	やや高い	やや高い



【小学校6年生の傾向】

国語ABが全国平均正答率を下回っている。特に、正しく漢字を書くことや文章の構成を理解することが苦手である。算数Aでは小数の計算や図形の理解が不足みである。算数Bでは面積に関する活用力が高い。理科では規則性を適用する思考力を高めたい。

国語科・算数科とも、指導法の改善を進め、基礎・基本のさらなる定着を図っているが、とりわけ国語についてはまだその効果が出てきていないという状況である。



【中学校3年生の傾向】

国語ABでは、平均正答率は全国と同程度となっている。数学AB・理科については、全国平均正答率を上回っており、小中連携を進める中で、中学生になると伸びていく犬山市の傾向は、これまでと同様に現れている。学習状況調査における家庭での学習時間を見ても、中学生になると増加する結果とも相関しており、学習への取組が中学生で向上するという状況がある。

学習状況や生活の様子 について

学習状況や生活の様子 について

＝ 児童生徒質問紙調査からの傾向を見ました。 ＝
【よくできている】

- ・ 将来の夢や目標をもっている。
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る。
- ・ 地域の行事に参加している。
- ・ 新聞を読んでいる。
- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・ 算数の勉強は大切だと思う。

【努力の必要がある】

- ・ 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する。
- ・ 自分のよいところを見つける。
- ・ 友達と積極的に話し合い、話や意見を最後まで聞く。
- ・ 読書を好きになる。
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える。
- ・ 国語の勉強を好きになる。

＝ 児童生徒質問紙調査からの傾向を見ました。 ＝
【よくできている】

- ・ 家で学校の宿題をする。家庭での学習時間が充実している。
- ・ 地域の行事に参加している。 ・ 新聞を読んでいる。
- ・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・ 学校の決まりを守っている。
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている。
- ・ 理科室での観察や実験をよく行う。 ・ 観察や実験を行うことが好きである。

【努力の必要がある】

- ・ 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する。
- ・ 話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりする。
- ・ 読書を好きになる。
- ・ 国語の勉強を好きになる。
- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもつ。
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える。



- 一人一人に応じた支援や指導の充実を図ります。
- 聞く力・話す力を育成する授業づくりを推進します。
- 学校図書館の充実を図り、よりよい読書習慣を育成します。

- 一人一人の良さや長所を生かした学習活動を展開し、満足感や達成感を味わうことができる振り返りの場を工夫します。
- 進路指導や職業体験学習（キャリア教育）の充実を図り、子どもたちが将来の夢や希望をもつことができるような取組を進めます。

